



20万分の1 海底地質図の新刊

八戸沖海底地質図

海洋地質図 10

著者 玉木賢策 (海洋地質部)

発行 工業技術院地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

- 本図は 1976年7月15日～30日にかけての16日間の白嶺丸による調査結果をとりまとめたものである。本図幅域は東北弧前縁部北端の大陸棚および上部大陸斜面を含む。大陸棚外縁部には多くの露頭がみられ、ここから多くの岩石を採取することができた。
- 本図の大きな成果の一つは、図幅内沿岸部には見られない新第三系の広範な分布を大陸棚において明らかにしたことであろう。本図ではこの新第三系を八戸沖層と命名した。本層中の多くの地点から砂岩・泥岩が採取され、珪藻分析の結果によれば本層は陸上三戸地域の中

部中新統門の沢層・下部中新統四ツ役層に対比される。

- 古第三系・新第三系・第四系は概ね海側に向って傾く同斜構造をなし、お互いに不整合関係にある。特に上部中新統・鮮新統の大陸棚および上部大陸斜面における欠除は、北上山塊北西側の1500mを超す上部中新統末の松山層・鮮新統三層層群の堆積とは対照的で興味深い。
- 今回の調査で意外であったのは、八戸沖の大陸棚および上部大陸斜面上の小海丘群から多くの火山砕屑岩(安山岩質～玄武岩質)が採取されたことである。本図ではこの火山砕屑岩を八戸沖火山岩類と命名した。八戸沖火山岩類は音波探査記録から判断すると八戸沖層と第四系の間すなわち上部中新統～鮮新統であると考えられる。この層準が正しければこの地域における新第三紀のvolcanic frontは従来考えられていたよりかなり海側へ移動することになる。しかし本火山岩類が八戸南方種差海岸の中生代噴出岩類に対比される可能性も残されている。近いうちに予定している絶対年代測定の結果が待たれる。
- 海底地質調査の最大の弱点はフィールドを目視できないことである。今回も新第三系の分帯を行いたかったが音波探査記録・ドレッジ等によるサンプリング結果からのみでは不可能であった。しかし音波探査記録は海底構造断面をみごとにを見せてくれる。本図では本地域の地質がなるべく立体的に把握できるようできるだけ多くの断面図を付し、可能な限りの走向・傾斜を記入し、そして第四系の等層厚線も入れた。また八戸沖火山岩類の伏在分布域も地磁気異常・音波探査記録から推定してみた。
- 本図幅域では幸いにも多くの露頭にめぐまれたがこの南の宮古沖・釜石沖大陸棚では第四系が厚く分布しており、先第四系の露頭はほとんど期待できそうにない。通常の海底地質調査ではこの地域の地質を明らかにするのは困難であろう。主として堆積の場である海底の地質図作りの難しいところである。

地質ニュース	第292号	12月号
昭和53年12月1日	定価 ¥450	〒50
編集	発行	
発行人	工業技術院 地質調査所	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	